

はじめに

保科 克行*

血管外科は脳と心臓を除くすべての脈管を診る外科領域です。血管外科は心臓外科／心臓血管外科の一部ではありません。従来、血管外科プロパーの医師は、消化器外科出身のことが多かったのです。癌と戦い、血管浸潤症例での剝離操作や血行再建の場面で血管をうまくさばける手技があったらという思いで、この道に入った医師も散見されます。

ところがこの領域でも、大動脈のステントグラフト内挿術が行われるようになり、腹部大動脈瘤の短期死亡率が3分の1になるという真の低侵襲化が進みました。また、血管内治療のデバイスも急激な進歩を示し、膝上まではバイパスファーストから血管内治療ファーストへ、というパラダイムシフトが起きたのです。メスをふるう、という言葉は外科医のための用語でしたが、メス以外の多くの武器を携えることができるようになった血管外科医は、多くの他科の医師からさらに頼りにされるようになりました。

脈管を制し出血をコントロールする者は手術を制す、という言葉に頷かれる先生方も多いかと思います。消化器・一般外科の専門領域において、手術に携わる外科医はその臓器周囲の脈管を当然熟知していなくてはならず、また、それをコントロールする術は経験の蓄積とともに身につけていきます。ただ、脈管を専門とするわれわれ血管外科医から学んでいただけることも多いのではないのでしょうか。

武器は多いほうが手術という戦いを有利に進めることができます。本特集では血管外科の国手ともいえる先生方に執筆をお願いしました。本特集の読了後、先生方の技術にさらに厚みが増すことを願います。

*Katsuyuki HOSHINA. 東京大学血管外科

Keywords

脈管, 血管外科, 血管浸潤